

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

生徒に寄り添い、「じりつ」を支える学校

【生徒に育みたい力】

①「わかる！できる！のびる！」を実感し、体得する基礎学力 ②主体的に活動し、社会でたくましく生きる力

2 中期的目標

1 確かな学力を育成する

(1) 生徒の学ぶ意欲を高める「わかる授業」「面白い授業」の実践。

ア モジュール授業や入門科目により、基礎・基本的事項の確実な定着を図る。

※基礎力診断テストにより生徒の基礎学力の定着度を把握し、指導の改善を図る。

イ 生徒1人1台端末の効果的な活用に向けて校内体制の整備を進めるとともに、ICTの活用も含め学校全体で計画的に研究授業や校内研修を行うことで授業力の向上を図り、生徒の思考力・判断力・表現力を高める授業を実践する。

(2) 選択科目やエンパワメントタイムの充実

(3) 進学特別講習や補習を行うなど、生徒の進路実現や学習理解の促進を達成するための学習支援を推進する。

※学校教育自己診断における「生徒の授業に関する肯定的意見」の割合を令和7年度には85%以上とする。

(R2 69%、R3 73%、R4 82%)

2 進路を実現するため、系統的なキャリア教育を推進する

(1) 計画的なキャリア教育を推進し、「総合的な探究の時間」「産業社会と人間」「人生設計学」等のエンパワメントタイムなどにおいて、系統的な学習を実施する。

(2) 英語や情報に関する資格の取得を促進する。

(3) キャリア教育コーディネーターとの連携を深め、説明会や授業など様々な機会において、キャリアプランニングに関する取組みを行う。

※進路未決定率ゼロを達成するために、学校教育自己診断における「生徒のキャリア教育に関する肯定的意見」の割合を令和7年度において、85%以上を維持する。

(R2 76%、R3 79%、R4 90%)

3 生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧な生徒指導を推進する

(1) 進路実現に必要な基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。

ア 遅刻指導・服装指導・頭髪指導を丁寧に実施し、基本的な生活習慣を確立させる。

イ すすんで挨拶する態度を身につけさせる。

ウ 交通マナー向上の取組みを強化する。

(2) 生徒理解と中途退学防止の取組みを組織的に発展させる。

ア 様々な機会を通して生徒の話を聴き、生徒の複雑な生活背景を把握したうえで指導を行う。

イ 課題を抱える生徒の指導、支援の方針を担任会、保健・相談部会、教育相談連絡会、支援委員会などで組織的に検討し、個別の指導計画の作成をすすめ、支援の充実を図る。

ウ SC、SSWなど専門人材の有機活用と関連機関との連携を進める。

(3) 家庭、地域、中学校との連携を強化し、開かれた学校作りを進める。

ア 公開授業や出前授業を積極的に行い、エンパワメントスクールとしての新たな取組みを地域や中学生、保護者等へアピールする。

※中途退学率・生徒指導案件数を前年度数値以下とする。

イ 文化祭・体育祭などの学校行事における保護者の参加を促し、PTA活動を活性化する。

ウ 地域清掃活動及び地域の高齢者施設、幼稚園、支援学校等との交流活動の充実を図る。

4 自尊感情、自己有用感を育む教育を推進する

(1) 人権・国際理解・道徳の各教育の取組みを有機的に推進し、豊かな人間関係をつくる力を育成する。

ア アサーショントレーニング・アンガーマネジメントなどによりコミュニケーション力を育成する。

イ ユネスコスクールとして、SDGsの視点を踏まえた国際理解教育を推進する。

ウ 「道徳教育推進教師」を中心に教科を横断した道徳教育の展開に取り組む。

エ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見、解決に取り組む。

オ 新型コロナウイルス感染症については、学びの保障とあわせて、偏見や差別が生じないよう指導する。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて、集団や学校への帰属意識や自己有用感を高める。

ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる力を育成する。

イ 部活動の充実を図り、加入率を高める。

ウ 多様性を包括する集団作りを通じて、公共心を育成する。

※部活動加入率を令和7年度には40%以上とする。(R2 38.0%、R3 32.4%、R4 27.5%)

5 教職員の資質向上と校務の効率化を推進する

(1) 教職員の学校運営への参画意識の醸成

(2) 全教員参加の全校一斉研究授業を実施する。

(3) OJTを中心とした研修を計画的・組織的に実施し、初任者等経験年数の少ない教員の資質向上を図る。

(4) フォロアーシップを高め、ミドルリーダーの育成に力を入れる。

(5) 教職員のICT活用能力を高め、会議や校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減する。

(6) 「部活動の在り方に関する方針」に則った効率的、効果的な部活動を実施する。

※研究授業・公開授業の全員参加をめざす。

※令和7年度までに、教員の超過勤務月平均時間を30時間以下とし、維持していく。

(R2 21.9時間、R3 17.9時間、R4 26.6時間)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>※各指標の肯定的回答率後（ ）内は（R4との比較：R4値－R3値）</p> <p>【学習指導等】 ○「中期的目標1」について、以下の項目を検証。 「授業はわかりやすい」 生徒85%（3%増：82－77%）、保護者67%（11%減：78－67%） 「教え方に工夫をしている先生が多い」 生徒86%（4%増：82－75%）、保護者66%（18%減：84－60%） 「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」 保護者66%（18%減：84－60%） 「生徒のレベルに応じた分かりやすい授業にする努力をしている」 教職員93%（3%増：90－80%） 「生徒の実態をふまえ、教科として指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている」 教職員90%（3%減：93－85%）</p> <p>教職員の意識・行動として、生徒の意欲を高め、個々の生徒に応じた授業を考え、その結果が生徒の授業に対する認識にも表れていると考える。引き続き、授業改善・教員の授業力向上の取り組みを進めていきたい。 一方、保護者に対しては、実際の授業の様子や生徒たちの状況・認識が十分に伝わっていないと考える。保護者の学校行事等への参加率向上や広報活動の更なる充実にむけ、積極的な取り組みを進めていきたい。</p> <p>【進路指導等】 ○「中期的目標2」の進路指導については以下の項目を検証。 「選択教科が工夫されていて自分の学びたいことを学べる」 生徒87%（3%増：84－77%）、保護者91%（1%減：92－89%） 「将来の進路や生き方について考える機会がある」 生徒90%（増減なし：90－79%）、保護者88%（5%増：82－74%） 「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている」 教職員80%（5%減：85－76%） 「本校はスクール・ミッションに基づき生徒の進路実現に向けた教育活動・学校運営を行っている」 教職員60%（新規）（再掲）</p> <p>生徒・保護者では、進路実現に向けた系統的な教育について、高い肯定的回答率を維持できている。一方で、教職員の意識として、学校全体での教育活動の実施や生徒・保護者への適切できめ細かい情報提供に課題があると考えている。 次年度以降、より一層学校全体として卒業後の「じりつ」に向けた取り組みができるよう、教育課程の見直しも含め、系統的なキャリア教育の体制づくりを行いたい。</p> <p>【生徒指導等】 ○「中期的目標3」「中期的目標4」については以下の項目を検証。 「エンパワメントスクールに入学してよかった」 生徒90%（4%増：86－82%）、保護者92%（2%増：90－89%） 「学校に行くのが楽しい」 生徒76%（7%増：69－66%）、保護者80%（増減なし：80－70%） 「学校生活についての先生の指導に納得できる」 生徒71%（6%増：65－61%）、保護者77%（4%増：73－69%） 「先生は、いじめなど、私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」 生徒82%（8%減：90－73%）、保護者82%（4%減：86－67%） 「担任の先生以外にも保健室・相談室など、気軽に相談することができる先生がいる」 生徒72%（4%増：68－62%）、保護者65%（4%増：61－49%） 「部活動に積極的に参加している」 生徒39%（5%増：35－46%）、保護者34%（14%増：20－30%）</p> <p>学校に対する満足度については、年々向上してきており、学校としての指導・取り組みに対する生徒・保護者の理解が増してきている状況がうかがえる。但し、「入学してよかった」に比べ、「行くのが楽しい」や指導・相談への満足度が低い点については、課題として残っている。 また、部活動については、引き続き低い肯定的回答率（及び部活参加率）となっており、部活動や学校行事の活性化などを通じて、生徒の居場所づくりを引き続き進める必要がある。</p> <p>【学校運営】 ○「中期的目標5」については以下の項目を検証。 「本校はスクール・ミッションに基づき生徒の進路実現に向けた教育活動・学校運営を行っている」 教職員60%（新規）（再掲） 「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしてい</p>	<p>【第1回 6月10日開催】 ○令和5年度学校経営計画及び学校評価について ・校長交代に伴い、令和4年度第3回で承認いただいた内容からの変更点（[1]教員のICT活用指導力向上の推進の追記、[2]スクール・ポリシーに沿った進路実現に向けた系統的な（キャリア）教育の推進について）を説明し、承認をいただく。 ○確かな学力の育成、生徒の学ぶ意欲を高める授業の実践について ・総合学科の特色を活かし、地域との連携の機会を設けること、社会の実態に即した授業の展開を行うことなど、外部（人材）の活用に向けた前向きな取り組みをしてほしい。 ・ICTの活用について、環境整備に加え、卒業後（社会に出るまでに）しっかりと知識を習得できるようにしてほしい。</p> <p>【第2回 10月28日開催】 ○スクール・ポリシーについて ・ミッションでの「じりつ」に二つの意味を込めている点、その内容を踏まえたポリシー（案）を作成している点について肯定的な意見をいただいた。 ・ただ、「誰に向けてのことばなのか？」「教育関係者にしか分からない表現がある」「最初にタイトルをつけてはどうか」といったミッションの表記・表現についてや、「学校として打ち出したい項目をトップに持ってくるべき」といった項目の順番について、改善点等の指摘をいただいた。 ○学校経営計画の進捗について ・基礎学力調査の結果及び現状分析について説明し、弱くなっている部分とコロナの影響の有無や改善策について協議を行った。卒業後の離職率等を含めた分析の必要性等の意見をいただく。 ・地域清掃等への行事の参加者増について、肯定的な意見をいただく。</p> <p>【第3回 3月7日開催】 ○令和5年度学校経営計画及び学校評価、及び、令和6年度学校経営計画及び学校評価について ・本校を志す中学生やその保護者に対して、どのようにアピールしているのか、また、そのアピールに対してどういふところに手応えを感じているのか、という質問があり、情報交換を行った。その際、具体的なエピソードの紹介や中学校訪問時の中学校教員との対話の重要性について助言いただいた。 ・ユネスコスクールの活動や働き方改革、不登校対策について、質問があり、記載内容に基づき、次年度以降の方向性について説明した。 ※令和6年度の学校運営に関する基本的な方針（学校経営計画のめざす学校像、中期的目標）について、承認を得た。 ○令和5年度学校教育自己診断について、第2回授業アンケート結果について ・アンケートで満足度を見る場合の分析方法として、NPSを活用した分析を紹介いただいた。質問項目の満足度を上げるためにはどうすればよいか、具体的な行動に移すためのヒントにつながるものであり、次年度以降の分析の参考にしたい。 ・エンパワメントスクールについて、一時の注目度がなくなってきたことは否めないのではとの指摘をいただいた。カリキュラムの見直し・改善を含め、3年間の教育計画全体を再構築を行う方向性を説明した。 ・授業アンケート数値は非常に高いものだと言意見をいただいた。</p>

<p>る」 「教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」 「学校運営に教職員の意見が反映されている」 「教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」 「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」 「各種会議が有効に機能している」 「コンピューター等の ICT 機器が各教科の授業などで活用されている」 「学校では生徒 1 人 1 台端末が効果的に実施されている」 「校内研修が教育実践に役立つよう、計画的に実施されている」</p> <p>昨年度に比して、学校運営に対する教職員の認識は改善されているが、依然、評価できる数値ではない。特に、肯定的回答率が 50%を切る項目については、早急に改善が必要である。この結果を真摯に受け止め、次年度に向けて、教職員が連携しやすく意欲的に働ける学校体制・環境づくりに努めたい。</p>	<p>教職員 63% (39%増：24-46%) 教職員 55% (23%増：32-40%) 教職員 55% (26%増：29-37%) 教職員 40% (23%増：18-35%) 教職員 40% (13%増：27-33%) 教職員 40% (16%増：25-31%) 教職員 93% (8%増：85-86%) 教職員 78% (新規) 教職員 50% (33%増：17-62%)</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 確かな学力を育成する	<p>(1) 「わかる授業」「面白い授業」の実践。</p> <p>(2) 選択科目やエンパワメントタイムの充実</p> <p>(3) 進学特別講習や補習を実施する。</p>	<p>(1) ア 基礎力診断テストを実施し、生徒の学力の把握、授業の改善を図る。 イ 将来構想委員会を中心に授業力向上に向けた取組みを図るとともに、教員の ICT 活用指導力の向上・1人1台端末の活用を推進する。 ・計画的な校内研修と研究授業の実施 ・教員相互の授業見学週間の実施</p> <p>(2) ・丁寧なガイダンスを行い、進路実現に必要な科目を選択できるよう指導する。 ・生徒の希望する選択科目が開講できるよう時間を調整するとともに選択科目の追加も検討する。</p> <p>(3) ・進学意欲の高い生徒に対して、1年次より長期休業前等に進学特別講習を実施する。 ・学習理解の促進を図る補習の実施や、学習習慣の確立に向けて、放課後に校内で学習する生徒を増やす。</p>	<p>(1) ・授業アンケート、学校教育自己診断の結果、授業に対する肯定的な回答がそれぞれ、3.45、80%以上となったか。 [3.48、82%]</p> <p>・教員相互の授業見学週間を年間2回以上実施。</p> <p>(2) ・生徒が進路を実現するために必要な科目選択ができるよう、ガイダンスを1回以上開催したか。 ・学校教育自己診断における「選択科目に関する肯定的な意見が」が80%以上となったか。[84%] ・アクティブラーニングが実施できているか。授業アンケートにおける「授業展開に対する肯定的な回答」が3.40以上となったか。 [3.40]</p> <p>(3) ・進学特別講習の参加人数、実施回数が前年度を上回ったか。 [58時間のべ144人] ・キャリアガイダンスルームの放課後利用が450人以上となったか。[450人]</p>	<p>(1) ・授業アンケートの結果(△) 第1回 3.42 [授業評価の観点(3-7): 3.43] 第2回 3.44 [授業評価の観点(3-7): 3.45] ・学校教育自己診断における【生徒】「授業理解」に関する肯定的回答率 85%(◎) ・学校教育自己診断では大きく上回ったが、授業アンケートの結果は達することができなかった。引き続き生徒の現状把握をしつつ、授業改善につなげたい。 ・10月下旬から11月上旬にかけ教員相互の授業見学週間を実施したのみ。(△)</p> <p>(2) ・科目選択に関するガイダンスについては、1年生・2年生とも1学期に2回、2学期に1回実施。(○) ・学校教育自己診断における【生徒】「選択科目」に対する肯定的回答率 86%(◎) ・今年度1年生において、国事業「探究的な学び支援補助金2023」を活用し、「問い」を深める学習を行うなど、総合的な探求の時間を中心に、アクティブラーニングの要素を加えた授業を行うことができた。(○) ・授業アンケートの「授業展開」に関する結果(△) 第1回 3.35 第2回 3.38 授業の中での主体的・探究的な活動ができているかを確認する項目であり、これまでも数値が低いことから、向上に向け、意識的に取り組んでいきたい。</p> <p>(3) ・進学意欲の高い生徒に対して、今年度は自習室の開設という形で対応。ただ、利用実績は少なく、昨年度の進学特別講習の参加人数実績を大きく下回った。(△) ・キャリアガイダンスルームの放課後利用については、今年度60日強(1月末現在)開放した。但し、学習習慣の確立に向けては、上記自習室設置で対応したため、本ルームは進学希望者・就職希望</p>

府立淀川清流高等学校

				者向け面接指導で活用することが多く、延べ105名の指導が実施できた。進学・就職共に合格につなげることができた。利用者数という観点では目標値に達していないが、利用形態を変え、一人ひとりの生徒がめざす進路の実現につなげる取り組みを実施できた意義は大きいと考える。(○)
2 進路を実現するため系統的なキャリア教育を推進する	<p>(1) キャリア教育の視点から、系統的な学習を推進する。</p> <p>(2) 英語や情報に関する資格取得を促し、進路実現につなげる。</p> <p>(3) キャリアプランニングできる力を身につけさせる。</p>	<p>(1) 運営委員会を中心に校内研修の実施を検討するとともに、各学年や学校としての方向性の共有を図り、「総合的な探究の時間」「産業社会と人間」「人生設計学」を含めたキャリア教育の系統的な学習を推進する。</p> <p>(2) 英語や情報に関する資格取得を促し、進路実現につなげる。</p> <p>(3) キャリア教育コーディネーターと連携し、説明会や授業など様々な機会を通して、キャリアプランニングする力を身につける取組を行う。</p>	<p>(1) ・学校教育自己診断における「生徒のキャリア教育に関する肯定的意見」が85%以上を維持できたか。 [90%] ・学校教育自己診断における「教職員のキャリア教育に関する肯定的意見」が67%以上となったか。</p> <p>(2) ・情報試験（日本語ワープロ検定・情報処理技能検定）の合格率が65%以上となったか。 [63%] (3) ・進路決定率が95%以上となったか。 [88%]</p>	<p>(1) ・学校教育自己診断における【生徒】「キャリア教育」に関する肯定的回答率 90% (○) ・学校教育自己診断における【教職員】「キャリア教育」（スクールポリシーに関する新設項目）の肯定的回答率 60% (△) （質問）本校はスクール・ミッションに基づき生徒の進路実現に向けた教育活動・学校運営を行っている。 （参考）【教職員】「キャリア教育」（【生徒】「キャリア教育」に対応する設問）に関する肯定的回答率 90% [70%]</p> <p>(2) ・情報試験（日本語ワープロ検定・情報処理技能検定）の合格率 81% (○)</p> <p>(3) ・進路決定率 98% (○)</p>
3 生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧な生徒指導を推進する	<p>(1) 進路実現に必要な基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。</p> <p>(2) 生徒理解と中途退学防止の取組を組織的に発展させる。</p> <p>(3) 家庭、地域、中学校との連携強化と開かれた学校づくりを進める。</p>	<p>(1) ア 遅刻指導、服装指導、頭髪指導など基本的生活習慣の確立に必要な指導を行い、生徒自身が自らの進路を切り開くために必要な力をしっかり身につけさせる。 イ 校内において、教員が挨拶を励行することにより生徒に挨拶の習慣付けを行うとともに、登下校時の「あいさつ運動」の取組を生徒会も巻き込みながら実施し、生徒が自然に挨拶をする雰囲気醸成する。 ウ 学警連携も含め、通学マナーの指導及び交通安全指導の強化を図る。特に、生徒が被害者、加害者にならないように自転車のマナー指導を強化する。</p> <p>(2) ア 教室はもとより、教育相談室や保健室などでも生徒へのきめ細かな対応が行われるよう教育相談体制を充実させる。 イ 配慮を要する生徒等への支援や指導に向けての教職員の指導力の向上に取り組む。 ウ 担任団、管理職、SSW や SC などの専門人材、家庭、外部機関との連携をさら深め、きめ細かな指導を行う。</p> <p>(3) ア オープンスクールはもとより、公開授業、出前授業を積極的に行い、エンパワメントスクールとしての本校の新たな取組を地域や中学生、保護者等にアピールするとともに生徒情報の共有など中高連携のさらなる推進を図</p>	<p>(1) ア ・遅刻総数が 4,000 件以下、欠席総数が 8,000 件以下となったか。 [遅刻総数 3,892 件、欠席総数 9,478 件] イ 学校教育自己診断において、挨拶に対する生徒の肯定的な回答が 70%以上となったか。 [69%] ウ 近隣からの指摘の件数や通学マナーでの指導件数が 20 件以下となったか。 [21 件]</p> <p>(2) ア・イ・ウ ・教育相談連絡会、支援委員会など各組織において、充実した生徒支援の論議ができたか。 ・学校教育自己診断における「教育相談」に対する肯定的な回答が生徒・教員それぞれ 70%、80%以上となったか。 [68%、73%] (3) ア ・オープンスクールの総参加人数が 400 人以上となったか。 [447 人] ・学校教育自己診断にお</p>	<p>(1) ア ・遅刻総数 3,646 件 (○) 昨年度 3,892 件に比べ改善がみられる。 欠席総数 9,757 件 (△) 昨年度 9,478 件と比べると微増。コロナ5類移行もあり、目標達成はできなかった。 イ ・学校教育自己診断における【生徒】「挨拶」に関する肯定的回答率 74% (○) ウ ・近隣からの指摘による通学マナーでの指導件数は 10 件 (○)</p> <p>(2) ア・イ・ウ ・毎週実施する教育相談連絡会を中心に、支援委員会などを通じて、生徒状況の把握・共通理解の促進・必要な支援策の検討など、生徒支援に向けた論議を継続的に行うことができた。(○) ・学校教育自己診断における【生徒】「教育相談」に関する肯定的回答率 72%、【教職員】「教育相談」に関する肯定的回答率 83% (○)</p> <p>(3) ア ・オープンスクールの総参加人数が 491 人 (◎) ・学校教育自己診断における【保護者】「教育情報の</p>

		<p>る。</p> <p>イ 体育祭、文化祭などにおける保護者参加を促し、PTA 活動を活性化する。</p> <p>ウ 生徒、教職員、PTA が協力して地域の清掃活動をさらに活発化させる。また部活動等を通じて高齢者施設や幼稚園、支援学校等との交流を促進する。</p>	<p>る「教育情報の発信に力を入れているに関する肯定的な回答」が 85%以上となったか。[81%]</p> <p>イ 学校教育自己診断における「保護者交流」に関する肯定的回答が 61%以上となったか。[61%]</p> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域清掃の参加人数が1回あたり 80 人を上回ったか。[94 人] 支援学校等への部活動等の地域交流の取組み回数が前年度を上回ったか。 	<p>発信」に関する肯定的回答率 82% (△)</p> <p>新規に導入した連絡ツールにより、生徒・保護者への情報提供は細やかに行うことができるようになったが、Web 等を活用した外部への情報発信は不十分なところもある。次年度以降、しっかりと改善していきたい。</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断における【保護者】「保護者交流」に関する肯定的回答率 62% (○) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域清掃の参加人数 (◎) 第1回 90 人、第2回 99 人 思斉支援学校との交流の他に、今年度新たに地域のイベント (東淀川区民まつり等) へ参加するなど、前年度の実績を上回ることができた。(○)
<p>4 自尊感情自己有用感を育む教育を推進する</p>	<p>(1) 人権・国際理解・道徳の各教育の取組みを有機的に推進し、豊かな人間関係をつくる力を育成する。</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動を通じて、集団や学校への帰属意識や自己有用感を高める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 同和問題、障がい者理解はもとより、LGBT や情報リテラシーなど、新たな人権教育を実施する。 アサーショントレーニング、アンガーマネジメントなどのコミュニケーション力育成の取組みを行う。 <p>イ</p> <p>ユネスコスクールとして、SDGs の視点を踏まえ、JICA 講演、留学生交流など国際理解教育を実施する。</p> <p>ウ</p> <p>「道徳教育推進教師」を中心に教科を横断した道徳教育の展開を図る。</p> <p>エ</p> <p>「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見、解決に取り組む。</p> <p>オ</p> <p>新型コロナウイルス感染症については、生徒の安心・安全の確保、学びの保障に努めるとともに、偏見や差別が生じないように指導する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の自立心や主体的な行動力、集団への帰属意識等をより高めるために、生徒がより自主的に活動できる取組みを増やすなど、体育祭、文化祭等の学校行事のさらなる充実を図る。 <p>イ・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、新入生歓迎会、部活動紹介、体験入部、部活動入部キャンペーン、部活動の発表機会などの取組みをさらに充実させ、4月に入部しなかった生徒が入部しやすい機会を設 	<p>(1)</p> <p>ア・イ・ウ・エ・オ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断 (生徒) における「人権教育・国際理解教育に関する肯定的意見」がそれぞれ 80%、65%以上となったか。[82%、65%] 生徒指導案件における「暴力/ネット/人間関係のトラブルに関する事案」が前年度の件数を下回ったか。[19 件] <p>(2)</p> <p>ア・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断における「学校生活満足度」が 85%以上を維持できたか。[86%] 次年度以降の体育祭、文化祭などの学校行事について更なる工夫改善を行い、生徒が積極的に行事に参加できるようになったか。 <p>イ・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率が 35%以上となったか。[28%] 部活動加入増に向け、クラ 	<p>(1)</p> <p>ア・イ・ウ・エ・オ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断における【生徒】「人権教育」に関する肯定的回答率 90%、【生徒】「国際理解教育」に関する肯定的回答率 70% (◎) 生徒指導案件における「暴力/ネット/人間関係のトラブルに関する事案」 1 月末時点で 12 件 (◎) <p>(2)</p> <p>ア・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断における【生徒】「エンパワメントスクール」に関する肯定的回答率 90% (○) 学校教育自己診断における【生徒】「学校生活満足度」に関する肯定的回答率 76% (△) 「エンパワメントスクール入学への満足度」は高い数値で維持しているものの、「日常の学校生活の満足度」は、10 数ポイント低い数値となっている。学習面だけでなく学校行事や部活動等でも、生徒たちが意欲的に参加できるよう、引き続き改善を行いたい。 体育祭の実施については、コロナ以前の内容に戻す際、運営の効率化や生徒の体調管理の方法などについて検討を行い、実施した。ただ、その改善により生徒の積極性が増したとまでいうことは難しい。(△) 学校行事に関しては、生徒が主体的・積極的に活動できる場面・内容を増せるよう、全体で課題を検討し、更なる充実を図っていきたい。 <p>イ・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率 30% (△) 昨年度よりは2ポイント増加したものの、目標値に達することはできなかった。 今年度、部活動加入増にむけ、4月にクラブ体験週

府立淀川清流高等学校

		けるとともに、部活動を行うことのメリットを積極的に発信する。また、あらゆる機会を捉えて部活動を顕彰する。 ・アンケート等を実施し、クラブ活動に対する生徒のニーズを把握する。	ブ体験を実施するなどの工夫改善を行えたか。 ・ニーズのあるクラブの創設に向け、生徒や教員に対するアンケートを実施し意見集約したか。	間を設け、全校生徒に働きかけを行った。(○) ・個別の意見聴取はできたものの、生徒に対するアンケートを実施することはできなかった。(△)
5 教職員の資質向上と校務の効率化を推進する	<p>(1) 学校運営への参画意識の醸成</p> <p>(2) 研究授業の実施により授業力向上を図る。</p> <p>(3) OJT を中心とした研修を計画的・組織的に実施する。</p> <p>(4) フォロアアップを高め、ミドルリーダーの育成に力を入れる。</p> <p>(5) 教職員の ICT 活用能力を高める。 (6) 効率的、効果的な部活動を実施する。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意見を反映し円滑な学校運営をめざすためにも運営委員会を中心とした運営体制の活性化をより一層推進する。 <p>(2) (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃より教員間の授業見学を積極的に行い、全教員参加の校内一斉研究授業の年 1 回以上実施する ・教育センターの研修の他、他校の公開授業等への参加も積極的に奨励し授業力の向上に努める。 ・首席等を活用し、初任者等の経験年数の少ない教員への計画的な校内研修を実施し、資質向上を図る。 <p>(4)</p> <p>教職員間の意思疎通がスムーズかつ積極的に行われるよう、首席をはじめ、ミドルリーダーとなる教員の育成に力を入れる。</p> <p>(5) (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来構想委員会を立ち上げ、各種委員会を統合し、総合的に本校の学校経営計画に応じた具体的な方策を検討する。 ・将来構想委員会が中心となり、教職員の ICT 活用能力の向上を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が生徒と向き合う時間をさらに確保するために、校務分掌、業務分担の見直しや ICT 機 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断（教員）の「教職員の意見が学校運営に反映」に関する肯定的な回答が 50%以上となったか。 [29%] ・学校教育自己診断（教員）の「各分掌・学年間の円滑な連携と有機的な機能」に関する肯定的な回答が 50%以上となったか [27%] <p>(2) (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内一斉研究授業を 1 回以上実施したか。 ・初任者等経験年数の少ない教員に対して、授業改善につながる授業分析や指導助言をするため、教員ごとの個別の研究協議を行ったか。 ・研修を計画的組織的に実施できるよう、全教員に計画を示し、フィードバックを行ったか。 ・初任者等経験年数の少ない教員の生徒による授業アンケートの結果（項目 3～9 の平均）が 4 点満点中 3.0 以上を維持できたか。 [3.28] <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首席等ミドルリーダーになりえる人材を育成するため、校外研修等に教員を参加させたか。 ・会議などでリーダーシップを発揮できるよう、首席やミドルリーダーが司会や業務の整理に進んで取り組んだか。 <p>(5) (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断（教員）の「授業での ICT 機器の活用」に関する肯定的回答が 85%以上を維持できたか。 [85%] ・校務分掌や業務分担の見直し、業務の効率化の結 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における【教職員】「教職員の意見が学校運営に反映」に関する肯定的回答率 55% (○) ・学校教育自己診断における【教職員】「各分掌・学年間の円滑な連携と有機的な機能」に関する肯定的回答率 40% (△) 依然として、学校として有機的な協働・連携ができていないと考える教職員が多いことは学校運営上の大きな課題であり、早急に改善していきたい。 <p>(2) (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業見学週間を秋に一度実施したが、校内一斉研究授業を実施することはできなかった。(△) ・初任者については、公開研究授業や授業見学週間での積極的な見学呼びかけにより、教員への指導・助言を行う場面を設定できた。 ・しかし、経験年数の少ない教員全員に対して、別途個別の研究協議を設定することはできなかった。(△) ・年度当初に研修計画をするともに、今年度から実施した教員相互の授業見学週間については、あらかじめスケジュールを提示し進めた。また、教員相互の授業見学週間での各教員からの意見は全教員に示すとともに、そこで出された質問についても全教員に改めて問いかけ、その答えを共有した。(○) ・初任者等経験年数の少ない教員の生徒による授業アンケートの結果 [項目 3～9 の平均] (◎) 第 1 回 3.39 第 2 回 3.47 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育センターでの研修や今年度から実施した他の府立高校との研修交流に参加させることができた。(○) 他の府立高校との研修交流については、次年度以降も交流先を増やししながら、初任者等経験年数の少ない教員の参加しやすい日程で調整し、進めていきたい。 ・将来構想委員会やデジタル採点 PT 等の会議において、首席やミドルリーダーが司会・進行を進め、会議運営に率先して取り組んだ。(○) <p>(5) (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における【教職員】「授業での ICT 機器の活用」に関する肯定的回答率 85% (○) *なお、今年度から従来の【教職員】「授業での ICT 機器の活用」(肯定的回答率 95%)に加え、【教職員】「1 人 1 台端末の効果的な活用」についても調査項目を追加(肯定的回答 78%)し、その平均値で判断している。 ・「校務運営の効率化に向けて」の 10 項目の着実な実施につとめ、一定業務時間の縮減を行うことがで

府立淀川清流高等学校

		器の活用等による業務の効率化を図る。	果、生徒と向き合う時間の確保ができたか。 ・教員の超過勤務平均時間を 30 時間以下にできたか。 [26.6 時間]	きた。(○) グループウェアを活用した情報共有については、一部未実施の部分があるが、令和6年度に更新される統合ICTネットワークのシステムをフル活用し、更なる業務の縮減を図りたい。 ・教員の超過勤務平均時間 (◎) 月 20.8 時間
--	--	--------------------	---	---